



この広さ！ 天安門広場の北太和門前にて

北京・上海  
7/22~26

## 遺跡の広大さ 歴史の重みにためいき

—— 青少年海外視察 ——

9人が参加。中華人民共和国のジュータン工場やワイシャツ工場を視察したり異文化の生活習慣の違いを生で見、体験し、物の見方考え方に大分幅ができました。また、万里の長城や故宮などの文化遺産を見学し改めて、

遺跡の規模の広大さや歴史の重みを痛感させられました。

布施葉子さん(富下)、加瀬崇明さん(原方)

土屋淑江さん(小田部)、野村直輝さん(芝崎)

増島佳世子さん(篠本三区)、鈴木雅英さん

(小川台)、坂本光美さん(木戸)、古西京子さ

ん(橋場)、山中洋美さん(橋場)の高校生、大  
学生、会社員のみなさんが参加しました。

団長

### 加瀬 崇明

今回の中国への研修旅行は、私自身初めての海外旅行であり、団長という責任ある役も任せていただいた事と重なってとても緊張して旅行に臨みました。

私は、大学で中国について学んでいるので、一度ぜひ中国大陸へ渡ってみたいと思っていました。今回北京・上海と見て回り、今迄写真等でしか見た事が無かった風景や様々な建物を実際にこの目で見てとても感動すると同時に、改めて中国に対する興味や親近感の様なものを持ちました。

中国を旅行して、まず感じたのは、日本語がとてもよく通じた事です。ホテルや外国人向けの土産物屋だけでなく、市内レストラン

や公園、史跡などにある店でも必ず日本語の話せる方が何人かいて親切に話しかけてくれるのには驚きました。

あるレストランでアルバイトの大学生と話をする機会を得、お互いに大学生活の話などをしましたが驚く程日本に対する知識があり、

### 日本人の私を受け入れた中国

なかうまく話せず、結局言いたい事が伝わらなかった様でした。

もう一つ驚き、かつ印象に残ったのは、国全体が急速に発展しつつあり、また国民の一人ひとりが海外からの優れたものは全て自分の中に取り入れようとすると、姿勢を持つている事です。

きます。そうしたエネルギーに全ての人が満たされているせいか、どこへ行っても日本からの団体客として熱心な歓迎を受けました。

私自身も含め、日本人はなかなか海外に目を向け、身近なものとして捕える事が苦手な人が多い様に思います。日本と中国の間には過去戦争という悲しい歴史がありながら、しかもそうした事実をしっかりと把握しつつ日本人である私を受け入れてくれた中国の方たちに感謝しつつも、余りに無知、無関心な自分に深く反省させられました。

また、とても勉強熱心な姿を見て感心すると同時に、現在の中国に対する自分の勉強不足を恥ずかしく思いました。また、中国の人はカタコトの日本語でも積極的に私たちに色々と話しかけて来たので、私も少し学んだ中国語を試そうと何度か話しかけてみましたが、自然と声も小さくなりなが

北京では、高速道路や地下鉄の建設が進み、上海でも大規模な都市開発計画が推進され、海外からも注目を集めています。中国の人たちは、先進諸国から自分たちの国が遅れている事を素直に認め、しかしながら決して卑下する事無く海外の優れた技術を中国に適した形で次々と取り入れてい

この旅行を通じて思った事、考えた事を、これから大切に、自分自身も中国の事を学びまた関心を持って生活していく事が出来る様、努力していけたら素晴らしいと痛感しました。

